

あさひ  
朝日遺跡(本発掘調査B)

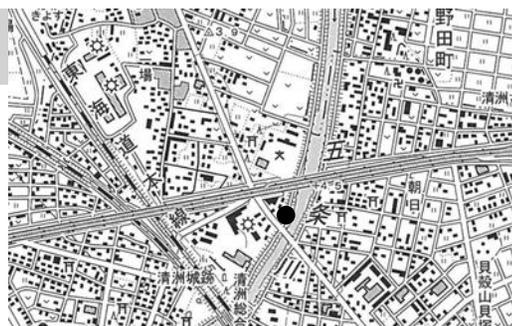
**所在地** 清須市西田中長堀地内  
(北緯35度13分04秒 東経136度51分03秒)

**調査理由** 新川西部流域下水道事業

**調査期間** 令和元年12月

**調査面積** 21㎡

**担当者** 樋上昇



調査地点(1/2.5万「清洲」)

**調査の経過** 発掘調査は、新川西部流域下水道工事に伴う事前調査として、愛知県建設局下水道課より愛知県教育委員会を通じた委託事業としておこなった。

**立地と環境** 朝日遺跡は五条川右岸の沖積微高地に立地する。現地表面での標高はおよそ4mを測る。今回の調査区は史跡貝殻山貝塚の西にあたり、弥生時代前期および中期前葉～中葉の環濠集落(中期は南居住域)の西端にあたる。

**調査の概要** 朝日遺跡の基本土層は、上から現代の盛り土、旧水田耕作土、古墳時代中期の堆積とみられる灰白色シルト層、弥生時代の堆積層である黒褐色シルト層があり、基盤層である灰白色中粒砂層にいたる。しかし、今回の調査では黒褐色シルト層までが完全に攪乱されていたため、最下面の灰白色中粒砂層上面での遺構検出と掘削にとどまった。

弥生時代前期の土坑07SKのほかは、全て弥生時代中期の遺構と考えられる。うち、調査区南東隅の18SKからは凹線紋系の甕と古井式の壺の破片を確認した。(樋上 昇)



調査区南半部検出状況(東から)



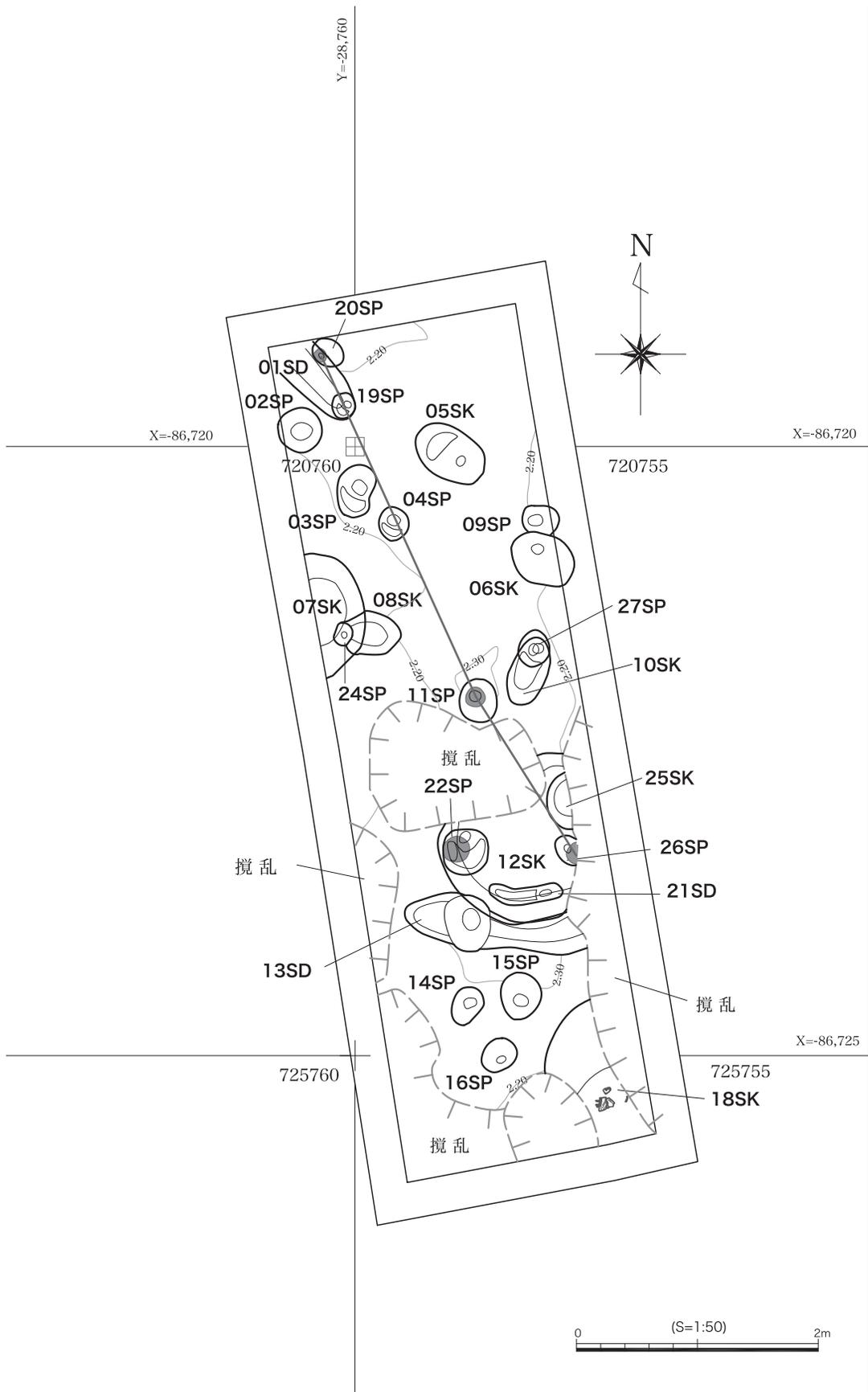
調査区北半部検出状況(東から)



完掘状況(西から)



18SK土器出土状況(西から)



遺構全体図 (S=1/50)